

令和6年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和5年度		
事業番号	14	事業名	交通安全啓発事業		担当課		安心安全課		
					予算区分（款-項-目-中事業）		2-1-11-2 交通安全啓発事業		
			(大事業名) 交通安全事業		決算書ページ		72 ~ 一般		
I 基本情報	総合計画	基本目標	4	誰もがいきいきと安心して暮らせるまち		事業開始の背景	交通事故のない社会の実現を目指した取組を推進し、市民が安全に安心して暮らすことができる社会実現に寄与することを目的とする。		
		政策	1	住み慣れた場所で安心して暮らすことができる地域づくり					
		施策	(3)	交通安全・防犯の推進					
	その他	開始年度							
		終了予定年度					☐ 年度 ☒ 未定		
		根拠法令等					長久手市交通安全条例		
		関連計画							
	事業の概要・目的	アウトプット（詳細はⅡへ）				アウトカム（詳細はⅢへ）			
		①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。 また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような 状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)	
		【対象】 ☒ 市民 ☐ 事業者 ☐ 職員 ☐ その他 対象の数： 60,000人 【事業内容】 交通安全対策のための啓発事業の実施や、物資の支給による交通安全活動の支援を行います。		【アクションプラン指標】 交通安全講習会の開催【単年】 【その他の指標】 幼児交通安全教室の参加者数【単年】 人身事故の件数		人身事故が減少する。 (成果指標名) 人身事故の件数		大 事 業 共 通 交通事故の少ない安心なまちになる。	

活動指標名		単位	基準値（2018年） 目標値（2023年） ※AP指標のみ		区分	R5(2023) 年度	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	
活動指標	1	【アクションプラン事業】 交通安全講習会の開催【単年】	回	基準値	32	見込	40	30	30	30	30
				目標値	40	実績	23				
	2	【その他指標】 幼児交通安全教室の参加者数【単年】	人	基準値		見込	425	450	475	500	525
				目標値		実績	1,270				
	3	【その他指標】 人身事故の件数	件	基準値		見込	221	206	191	176	161
				目標値		実績	192				
	4			基準値		見込					
				目標値		実績					
事業開始からの経緯											
これまで交通安全講習会やキャンペーン等で交通安全に関する活動を行ってきましたが、コロナ禍で啓発等ができなくなり、交通安全講習会の参加者が減少していました。令和4年度から徐々に啓発等の活動を再開してきています。											
R5(2023)年度の実績、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由											
コロナ禍により交通安全講習会が実施できない時期もあったが、令和5年の5類への移行により、コロナ禍以前と同程度の実施に回復してきているため、引き続き回数を増やすとともに、効果的なものになるようにしていきたいと考えています。											

Ⅲ 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		人身事故の件数	件	H30 年度		R4 年度		【現状】 R5 年度		R8 年度		R10 年度		
				296		176		192		176		146		
		成果達成状況					指標目標値の根拠							
		C	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている					市内で発生した人身事故件数の減少が、市民の交通安全意識を高め、交通事故の少ないまちにつながると考えます。 目標数値は、H30実績（296件）を基準に人身事故件数を毎年5%減少させることとしています。						
	評価の理由、分析													
	感染症の類型が5類へ移行したことにより、コロナ禍前のように人の移動が増えてきた中で、人身事故の件数は前年度より増えましたが、目標よりも少なかったことからC評価としました。													
	加える変化（ACTION）	今後の方向性（3年～5年先）		今後の方向性の理由										
		A	A. 現状維持 B. 拡充 C. 縮小 D. 廃止		幼児交通安全教室や子どもを対象とした講習会を引き続き実施していきます。 また、高齢者を対象とした講習会について、より効果的に実施できるようにしていきたいと考えています。									
		改善ポイント ※今後の方向性がAの場合は記入不要 (成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入)												
見直しの余地のある取組名		見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度			
1			☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止											
2		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												
3		☐ 拡充 ☐ 改善 ☐ 縮小 ☐ 廃止												

IV 費用	令和7年度予算の方向性（PLAN）	R7年度の費用（R6年度比）		3 年 間 の 推 移	(単位：千円)	R6(2024)年度	R5(2023)年度		R4(2022)年度		
		A	A. 現状維持 B. 拡充		事業費	予算	予算	決算	予算	決算	
			C. 縮小 D. 廃止			1,600	1,789	1,789	1,900	1,504	
		理由			特定財源	合計額					
		継続した事業の実施が重要なため、費用面では現状を維持し、ソフト面で改善をしつつ、事業目的に沿い実施していきたいと考えています。				(内 国費)					
						(内 県費)					
						(内 諸収入)					
						(内 その他)					
					一般財源						
		積算額			R6年度予算の内訳 <細々節名、 予算額、（R5年度予算額）>						
未定		消耗品費1,600千円（1,789千円）									